

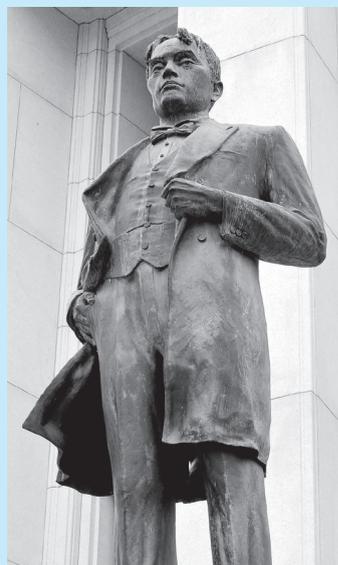
「大阪の恩人」五代友厚 — 活躍の跡をたどる —

先月まで放映されていたNHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」により、五代友厚が注目されるようになりました。五代(1836～1885)は薩摩藩士で、明治維新で活躍しましたが、明治2(1869)年に官を辞した後は大阪に本拠を置き、実業家として大阪の近代化に大きな業績を残しました。そのうちのいくつかを紹介しましょう。

明治2年、会社や銀行を近代的経営に移行するために、豪商らに呼びかけ、大阪通商会社と為替会社の設立を主導しました①。明治3(1870)年には五代の依頼により大阪活版所が開設され、大阪の近代印刷事業がはじまりました②。明治4(1871)年に創業した造幣寮(局)は一大コンビナートであり工業都市大阪の礎となりましたが、これを大阪に建設するために奔走しました③。明治8(1875)年には、大久保利通・木戸孝允・板垣退助による、わが国の立憲政治の基礎を築いた「大阪会議」が開催されました④。見解の異なる3者でしたが、五代らの調整により歴史的な会談が実現しました。明治9(1876)年には国産藍の振興を目的にわが国最初の大規模な精藍工場をつくりました⑤。明治11(1878)年には、大阪経済の立て直しのために大阪商法会議所(現在の大阪商工会議所)を設立し、初代会頭に就任しました⑥。人材の育成にも力を入れ、明治13(1880)年には、近代商業を学ぶ場として大阪商業講習所(後の大阪市立大学)を設立しました⑦。これらは大阪市の顕彰史跡として、ゆかりの地に石碑が立てられています。

五代は残された写真や銅像をみると、きりっとした端正な顔立ちで、女性にも人気があったとのことですが、幅広い人脈を活かした調整能力や企画力に長けていました。私利私欲にはしることなく、これだけの業績をあげながら亡くなった時には借金が残ったといいます。大阪を愛することだれに劣ることなく、「大阪の恩人」と言われる所以です。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)



大阪証券取引所ビル前 五代友厚像
(中央区北浜1)



①大阪通商会社・為替会社跡 顕彰碑



読者プレゼント

プレゼント:①美術館「特別展 王羲之から空海へー日中の名筆 漢字とかなの競演」(P11参照)招待券を5組10人、②大阪歴史博物館「開館15周年記念特別展 近代大阪職人図鑑」招待券を5組10人にプレゼントします。

希望者はハガキに希望のプレゼントの番号(1つ)、住所、名前、年齢、入手した場所、「いちよう並木」へのご意見・ご感想を書き、〒530-0001 北区梅田1-2-2-500 総合生涯学習センター「いちよう並木」読者プレゼント係へ。締切4月25日(月)必着。発表は発送をもってかえます。

※応募に際し取得した個人情報は、当該プレゼントの発送以外には利用いたしません。なお、いただきましたご意見等につきましては、無記名の情報として、今後の「いちよう並木」編集の参考とさせていただきます。